

「学習偏差値」より「人間偏差値」を

おはようございます。

早いもので、1 1 月になり、「涼しい」から「寒い」季節を迎えています。

体調管理には十分気をつけて下さい。

「秋」は気候的にも何をするにも良い季節です。

先日の合唱コンクールでは「芸術の秋」を満喫させていただきました。

他にも「読書の秋」「スポーツの秋」「実りの秋」、そして「食欲の秋」というように4つの季節の中でも最も「〇〇の・・・」と例えられる事が多いことから「秋」の素晴らしさは明らかなように思います。

皆さんは、何の秋に関心があるのでしょうか？

さて、3年生の皆さんにとっては、進路選択の山場に差し掛かっています。

実際、この前の日曜日には、大部分の生徒が、北辰テストを受けたのではないのでしょうか。

そして、数日後にはその結果が返却され、各教科の得点と併せて、いわゆる「偏差値」が示されます。

1年生には、まだ馴染みのない言葉かもしれませんが、「得点」は問題の難易度によって変化しますが、「偏差値」は問題の難易度に応じて「平均点」を50としているので、全体の中での自分の学力を示す有効な数値です。

3年生は、この偏差値に今、一喜一憂し、自分の進路選択のひとつの指針としていくのだと思いますが、あくまでもこの「学習偏差値」は受験生という人生の特別なひと時のことであり、君の一生や人間性を表した数値ではありません。

私は、朝、正門に立ち、登校してくる生徒にあいさつをしています。

もちろん、全生徒にあいさつが出来ている訳ではありませんが、その約10分の間でもいろいろな感情が沸き起こります。

2年1組の平田さんは、私のあいさつに対し、毎朝、とても丁寧に「おはようございます」と返してくれます。

3年2組のチェスカさんは、私のあいさつに対し、笑顔といっしょに「おはようございます」と返してくれます。

しかし、一方、恥ずかしいのか声が聞こえてこない生徒や友だち同士でガヤガヤ話したまま、まるで私のあいさつを無視するように横を通り過ぎていく生徒もいます。

これは、私見かも知れませんが、北辰テストの結果が「学習偏差値」ならば、「あいさつ」は、その人を評価する「人間偏差値」だ私は思っています。

そして、先ほども言いましたが「学習偏差値」は一過性のものですが、「人間偏差値」は一生のものだと思います。

皆さんは、どう思いますか？

私は皆さんに常々「凡事徹底」。—「あいさつ」「返事」「脱いだ靴を揃える」まずは身に付けてほしい実践を伝えています。

特に3年生には、残り4か月半で、この3つの実践行動を身に付けて卒業してほしいと願っています。

今日は私が願う「学習偏差値」より「人間偏差値」を、ということについてあらためて皆さんに考えてもらいました。